

# 米軍基地環境カルテ

キャンプ・シールズ（施設番号：FAC6032）

沖 縄 県

## 改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。
第3版	令和8年2月	「沖縄の米軍基地（令和6年3月沖縄県）」及び「環境白書（平成27年度報告～令和5年度報告沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
令和3年 3月30日	30-10	30.6 その他情報	表30-3を追加する。 沖縄県がネイビーヤード図書館で収集した年 月日『1983年』の項目を追加

## 目 次

30. キャンプ・シールズ（施設番号：FAC6032）	1
30.1 基本情報	1
30.1.1 名称	1
30.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
30.1.3 施設の概要等	3
30.1.4 施設の管理及び用途	3
30.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	3
30.1.6 土地利用規制図	3
30.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	3
30.2.1 基地等の土地の状況	3
30.2.1.1 地形分類図	3
30.2.1.2 表層地質図	3
30.2.1.3 土壤図	3
30.2.1.4 切盛土分布図	3
30.2.2 基地内の施設の使用状況	4
30.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	4
30.2.2.2 施設等使用履歴	4
30.3 基地等の環境状況	5
30.3.1 自然環境（植物）	5
30.3.1.1 現存植生図	5
30.3.1.2 植生自然度図	5
30.3.1.3 特定植物群落	6
30.3.1.4 重要な種、貴重な種等	6
30.3.2 自然環境（動物）	6
30.3.2.1 重要な種、貴重な種等	6
30.3.3 水利用状況	7
30.3.3.1 水利用状況	7
30.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	8
30.3.3.3 河川及びダムの分布状況	9
30.3.4 地下水の状況	9
30.3.4.1 地下水基盤面等高線図	9
30.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	10
30.4.1 事故等の概要	10
30.4.2 事故等発生場所	10
30.5 環境調査を実施する場合の留意事項	10
30.6 その他情報	10
30.7 環境等に関する通常監視について	10

## 30. キャンプ・シールズ（施設番号：FAC6032）

### 30.1 基本情報

#### 30.1.1 名称

キャンプ・シールズ（施設番号：FAC6032）

#### 30.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：美里村字登川、字知花

広さ：約 790,700 m<sup>2</sup>

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02\\_03.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf)）を参照

<平成 30 年 12 月現在>

所在地：沖縄市（字知花、字登川）

広さ：700 千m<sup>2</sup>

地主数：427 人

駐留軍従業員数：92 人

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

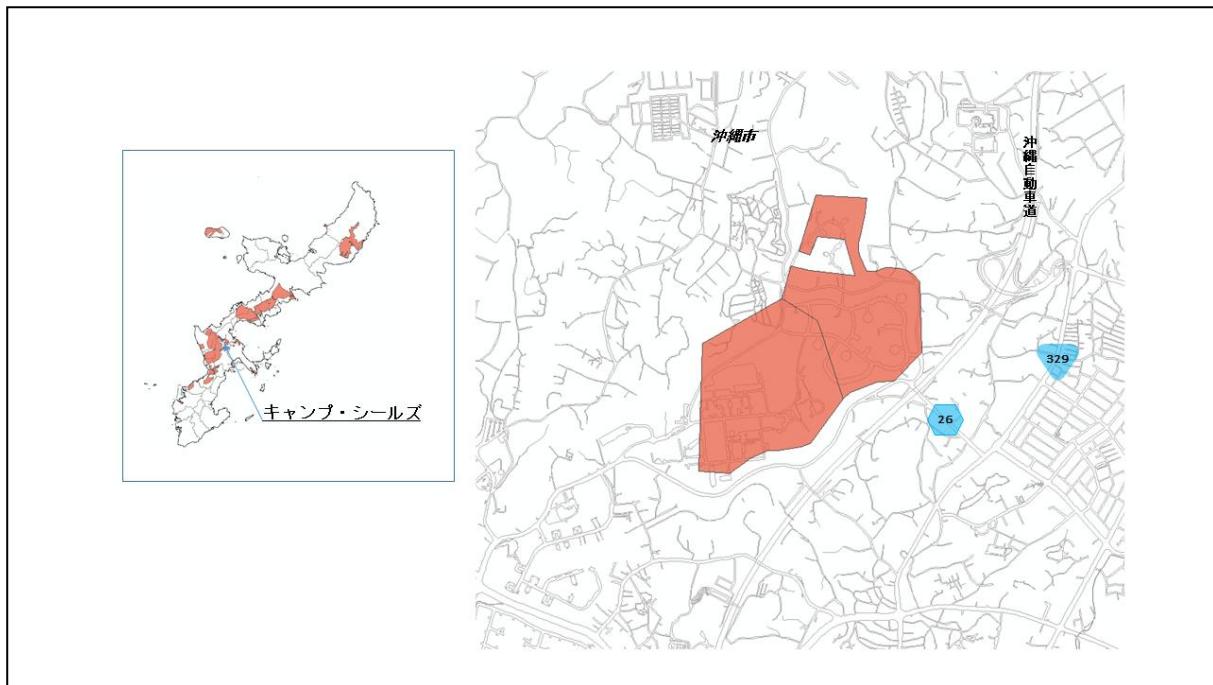


図 30-1 キャンプ・シールズの位置図（平成 28 年時）

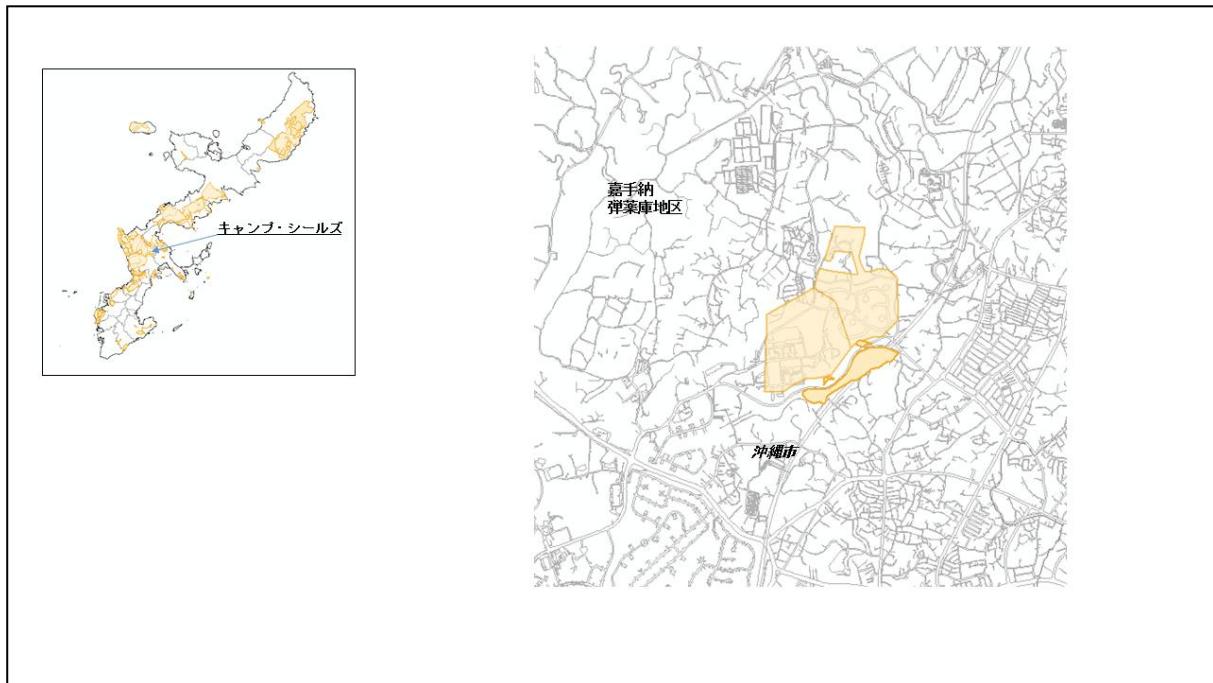


図 30-2 キャンプ・シールズの位置図（昭和 47 年時）



出典：沖縄県ホームページ「FAC6032 キャンプ・シールズ」（平成 29 年 2 月 6 日時点）から引用

図 30-3 キャンプ・シールズの航空写真

### 30.1.3 施設の概要等

本施設は、沖縄市の北西部に位置し、西側は嘉手納弾薬庫地区と隣接している。

海軍管理区域に“Seabee”といわれる海軍建設連隊れい下の海軍移動建設大隊及び第30海軍建設連隊沖縄分遣隊が駐屯し、主として同部隊の事務所、宿舎、機材の保管、訓練施設として使用されている。また、空軍管理区域は住宅地区として使用されている。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

### 30.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：在沖米海軍艦隊活動司令部、第18航空団第18施設群第718中隊

使用部隊名：海軍移動建設大隊（NMCB）、第30海軍建設連隊沖縄分遣隊

使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

### 30.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

＜返還計画＞

なし。

＜跡地利用計画＞

策定されていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和6年3月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

### 30.1.6 土地利用規制図

キャンプ・シールズ及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図C」に示す。

## 30.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

### 30.2.1 基地等の土地の状況

#### 30.2.1.1 地形分類図

キャンプ・シールズ及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図C」に示す。

#### 30.2.1.2 表層地質図

キャンプ・シールズ及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図C」に示す。

#### 30.2.1.3 土壌図

キャンプ・シールズ及び周辺の土壌図を図面集「土壌図C」に示す。

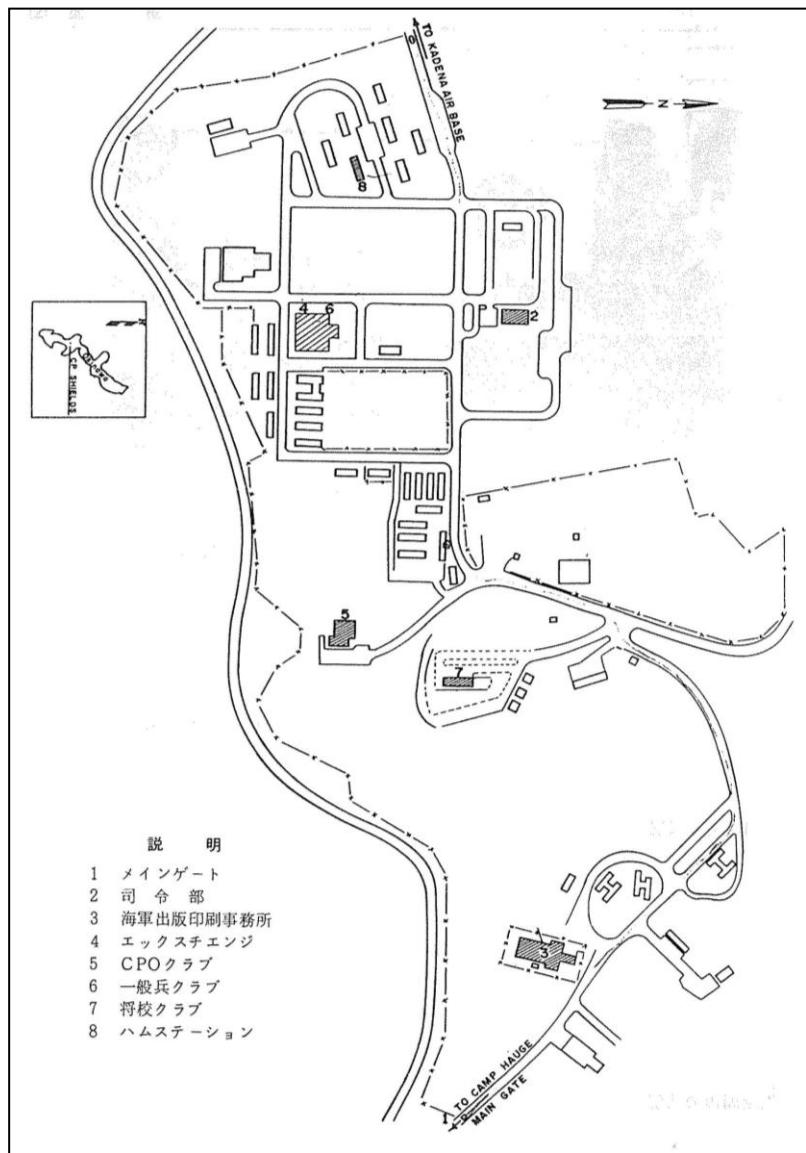
#### 30.2.1.4 切盛土分布図

キャンプ・シールズの切盛土分布図は作成されていない。

### 30.2.2 基地内の施設の使用状況

#### 30.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

「沖縄の米軍基地」で確認したキャンプ・シールズの施設配置図を図 30-4 に示す。



出典：「沖縄の米軍基地」（昭和 54 年 3 月、沖縄県渉外部基地渉外課）から引用

図 30-4 キャンプ・シールズの施設配置図

#### 30.2.2.2 施設等使用履歴

- |                  |   |
|------------------|---|
| 昭和 25 年 7 月 1 日  | 米陸軍の接收による使用開始。                                  |
| 昭和 46 年 8 月 31 日 | 沖縄返還協定了解覚書 C 表により約 603,000 m <sup>2</sup> を返還。  |
| 昭和 47 年 5 月 15 日 | 「キャンプ・シールズ」として提供開始（使用主目的：宿舎、管理事務所及び訓練場）。        |
| 昭和 49 年 9 月 30 日 | 県道 26 号東側の土地約 78,000 m <sup>2</sup> を返還。        |
| 昭和 52 年 1 月 27 日 | 隊舎施設として建物約 180 m <sup>2</sup> と工作物（照明装置等）を追加提供。 |
| 昭和 52 年 5 月 14 日 | 暫定法適用の土地約 2,700 m <sup>2</sup> を返還。             |

昭和 53 年 3 月 31 日	食堂として建物約 180 m <sup>2</sup> を追加提供。
昭和 55 年 12 月 15 日	暫定法適用の土地約 11,443 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 56 年 12 月 3 日	下水道として工作物（下水道）を追加提供。
昭和 58 年 9 月 8 日	道路用地として土地約 1,080 m <sup>2</sup> を追加提供。
昭和 58 年 10 月 31 日	農地等の土地約 970 m <sup>2</sup> を返還。
昭和 60 年 9 月 10 日	住宅等として建物約 12,000 m <sup>2</sup> と工作物（舗床等）を追加提供。
昭和 61 年 2 月 7 日	住宅等として建物約 39,300 m <sup>2</sup> と工作物（舗床等）を追加提供。
昭和 61 年 4 月 3 日	体育館等として建物約 1,370 m <sup>2</sup> と工作物（舗床等）を追加提供。
昭和 62 年 3 月 31 日	沖縄自動車道用地約 17,000 m <sup>2</sup> を返還。
平成元年 8 月 18 日	運動施設として工作物（雑工作物）を追加提供。
平成 3 年 9 月 12 日	倉庫等として建物約 4,500 m <sup>2</sup> と工作物（貯槽等）を追加提供。
平成 6 年 3 月 10 日	倉庫等として建物約 6,400 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 6 年 6 月 30 日	教育施設として建物約 960 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 7 年 7 月 5 日	工場等として建物約 4,300 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 10 年 5 月 18 日	消防ポンプ室等として建物約 40 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。
平成 16 年 11 月 4 日	隊舎等として、建物約 9,700 m <sup>2</sup> と工作物（水道等）を追加提供。
平成 18 年 12 月 31 日	道路用地の土地約 460 m <sup>2</sup> を返還。
平成 29 年 3 月 1 日	環境負荷低減対策設備として、工作物（電力線路等）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

#### ＜主要建物及び工作物＞

建 物：事務所、食堂、家族住宅、隊舎、倉庫、警衛所、体育館、売店、ポンプ室、整備工場ほか

工作物：保安柵、上下水道、駐車場、テニスコート、貯槽、消防設備、受変電設備、野球場、レクリエーション施設ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（令和 6 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）から引用

### 30.3 基地等の環境状況

#### 30.3.1 自然環境（植物）

##### 30.3.1.1 現存植生図

キャンプ・シールズ及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図 C」に示す。

##### 30.3.1.2 植生自然度図

キャンプ・シールズ及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図 C」に示す。

### 30.3.1.3 特定植物群落

キャンプ・シールズ及び周辺の特定植物群落を表 30-1 に示す。キャンプ・シールズ及び周辺の特定植物群落として、「知花城趾の植生」がある。

表 30-1 キャンプ・シールズ及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	知花城趾の植生	E, H	亜熱帯常緑広葉高木林	

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

- A : 原生林もしくはそれに近い自然林
- B : 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C : 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群
- D : 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
- E : 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
- F : 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G : 亂獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H : その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

### 30.3.1.4 重要な種、貴重な種等

キャンプ・シールズのある沖縄市で確認された重要な種、貴重な種等（植物）は 74 種類ある。

出典：「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編－自然編－」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

## 30.3.2 自然環境（動物）

### 30.3.2.1 重要な種、貴重な種等

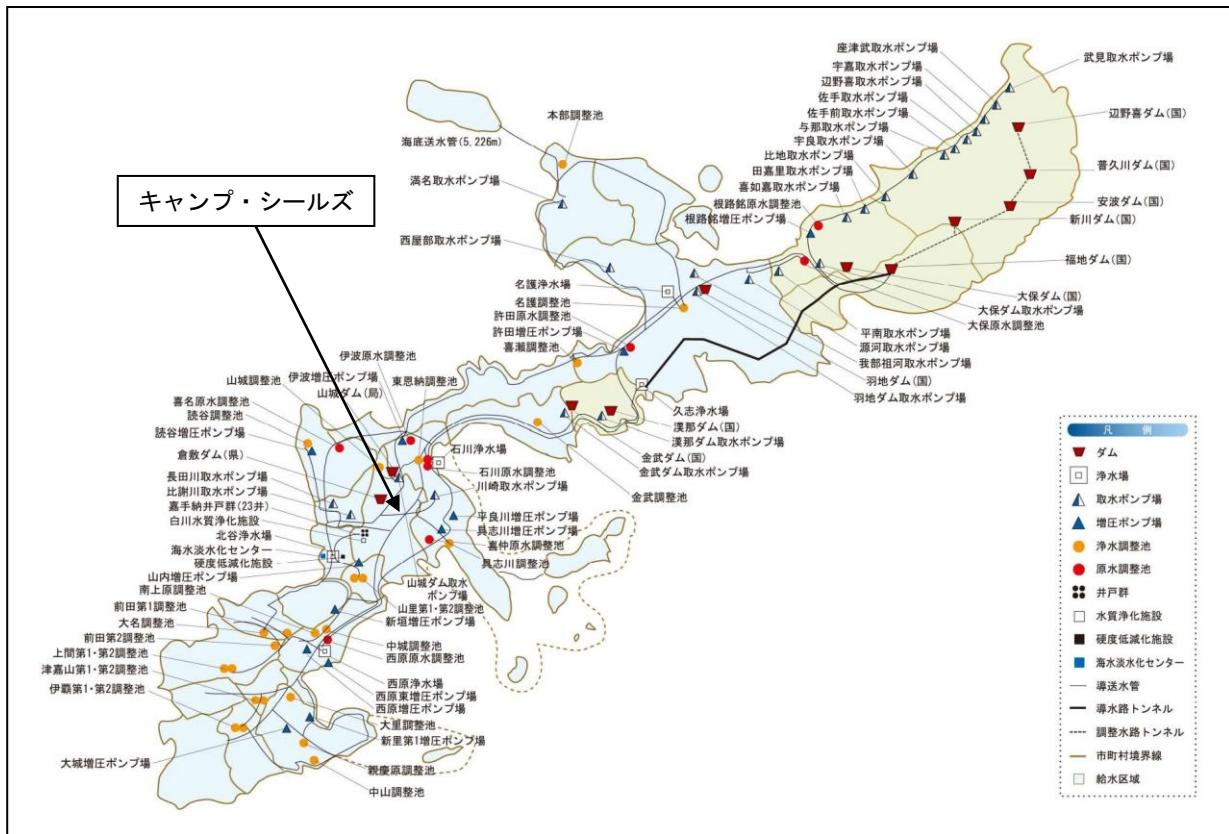
キャンプ・シールズのある沖縄市で生息が確認された重要な種、貴重な種等（動物）は 102 種類いる。

出典：「沖縄市史 第四巻 自然・地理・考古編－自然編－」（2007、沖縄市総務部総務課）を参照

### 30.3.3 水利用状況

#### 30.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図 30-5 に示す。

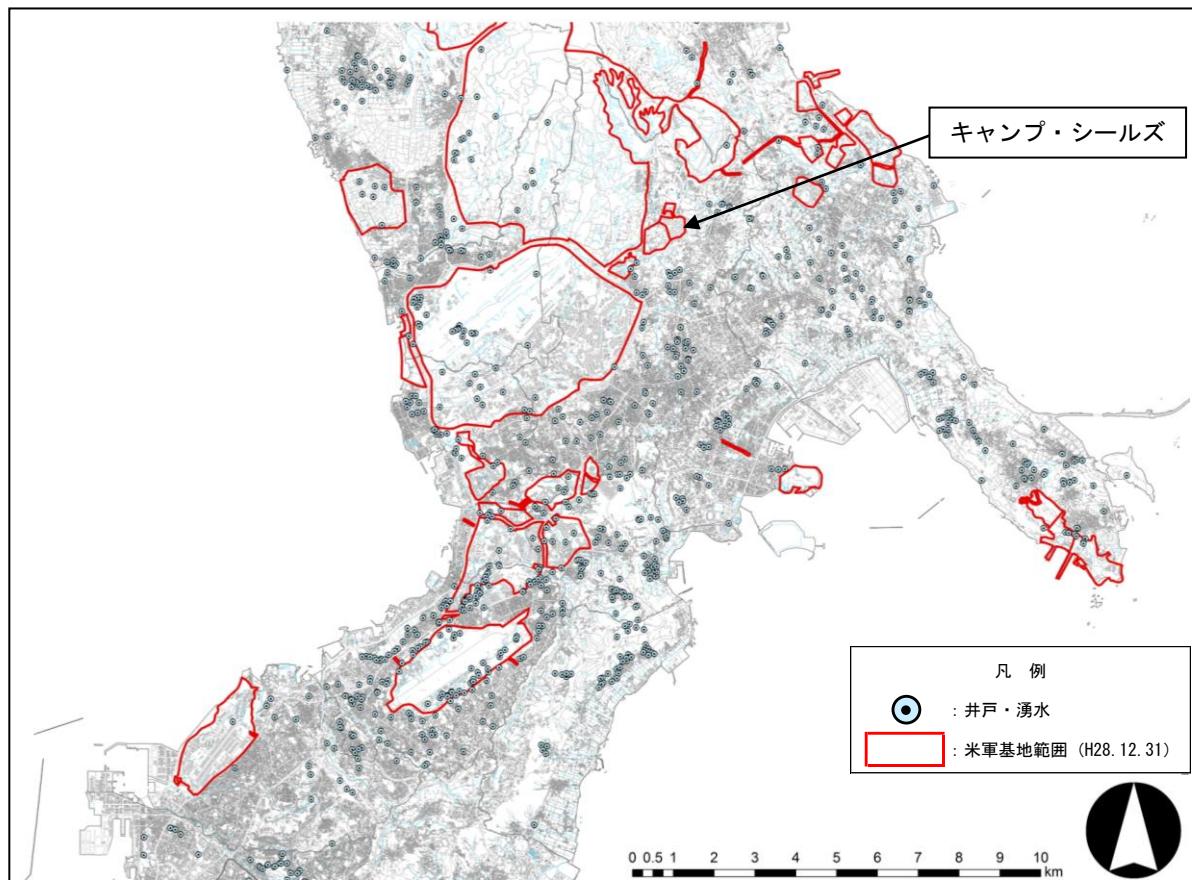


出典：「2015<平成 26 年度決算版> 環境報告書」（平成 28 年 3 月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図 30-5 沖縄島及び周辺の水利用状況

### 30.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

キャンプ・シールズ及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 30-6 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、 第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、  
活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 30-6 キャンプ・シールズ及び周辺の井戸・湧水分布状況

### 30.3.3.3 河川及びダムの分布状況

キャンプ・シールズ及び周辺の河川、ダム分布状況及びその概要を図 30-7、表 30-2 に示す。

キャンプ・シールズ及び周辺には、二級河川が 1 本ある。

なお、周辺に国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、 第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、

「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照

図 30-7 キャンプ・シールズ及び周辺の河川、ダム分布状況

表 30-2 キャンプ・シールズ及び周辺の二級河川の概要

比謝川水系 比謝川	指定延長：15,932m	流域面積：49.66km <sup>2</sup>
指定区間：（左岸）沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る		
（右岸）沖縄市字胡屋 5 丁目 355 番 3 から海に至る		

出典：沖縄県ホームページ「沖縄の河川資料室」掲載資料「2級河川指定一覧表」（平成 25 年 4 月 1 日現在）  
を参照

### 30.3.4 地下水の状況

#### 30.3.4.1 地下水基盤面等高線図

キャンプ・シールズ及び周辺の地下水基盤面等高線図を図面集「地下水基盤面等高線図 C」に示す。

## 30.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

### 30.4.1 事故等の概要

キャンプ・シールズ及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年～令和 6 年、沖縄県）

「環境白書」（平成 24 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県）を参照

### 30.4.2 事故等発生場所

キャンプ・シールズにおける米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

## 30.5 環境調査を実施する場合の留意事項

キャンプ・シールズにおいて、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- 1 機械修理に使用される薬剤等による汚染が懸念されるため、地下水や土壤汚染調査を行い、顕著な汚染が確認された場合は地質調査（ボーリング調査等）を実施する。

## 30.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）等で収集した在日米軍関係資料のうち、キャンプ・シールズ及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 30-3 に示す。

キャンプ・シールズ及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 30-3 キャンプ・シールズ及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 等収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1983 年	—	写真	Naval Mobile Construction Battalion 4 の 1983 年活動冊子内のキャンプ・シールズの空中写真。

## 30.7 環境等に関する通常監視について

在沖米軍施設・区域に起因する環境汚染を防止するため、沖縄県では基地排水等の監視、事故時の調査を実施し、水質汚濁の状況把握に努めている。

キャンプ・シールズにおけるこれまでの調査で、基準に適合しなかった結果の概要を表 30-4 に示す。

表 30-4 米軍基地排水調査における基準不適合結果の概要

調査地点名	調査年月日	項目	値	備考
比謝川流入口	昭和 51 年 11 月 4 日	pH	9	排水基準

◆ 一律排水基準

pH (5.8 以上 8.6 以下)

出典：「環境白書」（昭和 51 年度報告～令和 5 年度報告、沖縄県）を参照